

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援 スマイリーハーツ		
○保護者評価実施期間	2024年 11月 20日		～ 2024年 12月 15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○従業者評価実施期間	2024年 12月 14日		～ 2024年 12月 24日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	2024年 12月 30日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	色々な経験から「楽しい」や「出来た」につなげたいと、土曜日や長期休暇には「相撲部屋見学」「警察見学」「消防署見学」「バスの運転手体験」など様々なイベントプログラムを実施している	「仕事体験」「地域交流」を意識し、事業所周りのお仕事を見学、体験させてもらうことにより将来のヒントになるようにしたいと企画している	大人気で保護者評価も高いため、さらに新しい経験が出来るよう、いろいろなお仕事を探して体験をしていく
2	ビジョントレーニングと個別課題への取り組み	視覚機能向上のためのビジョントレーニングは毎日必ず実施。繰り返し行うことで出来なかったことが早くなったり、次のステップに進んだりしている。また、日々用意される個別の指先課題や個々に合わせたプリントなど、来所時間がまちまちでもその時間を利用してじっくり取り組めるので毎日積み重ねている	指先課題の充実、時には運動系も組み込み更なる個々の課題への取り組みも取り入れていきたい
3	「運動」「工作」「SST」「英語」「ことば」「ビジョントレーニング」等いろいろなプログラムがバランス良く入るようにプログラムを組み、その中で小集団支援、個別支援をうまく取り入れるようにしている。	工作や運動で個人で取り組む場合は「集中力」や「想像力」を育めるよう、また小集団では「社会性」や「協調性」も育まれるよう支援している	専門的支援実施により、より個別での専門性を上げた支援をしていく

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	職員が支援中に違う対応をしてしまう	障がい児童福祉の経験が長い者と未経験に近い者との差が出てしまう。	内部研修含め、ミーティングを重ね、共通認識としていく。ルールは徹底して守る
2	支援プログラムのバランス配置	工作が増える時期になると準備に時間がとられすぎてしまう	細かい準備が必要なプログラムが増えると準備に多くの時間を使用してしまうので、バランスよく配置していくようにする
3	支援時間が長い場合の集中力の保ち方	支援時間が長いとどうしても崩れてきてしまう場合がある	支援時間にメリハリをつけ、動と静を交互に組みながら飽きないように支援内容を組み立てていく